

31. 東南アジア地域研究研究所

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 86)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 87)

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

地域研究分野で、大平正芳記念賞、大同生命地域研究奨励賞、学士院賞、文化人類学会賞、地域研究コンソーシアム研究企画賞及びフィリピンの National Book Award を、自然科学分野で、保健文化賞を受賞した研究がある。また、科研費等の外部研究資金の受入総額は基幹運営費の 119.1%に上る。さらに、『地域研究叢書』を 7 冊刊行し、うち 1 冊は国際地域開発研究大来賞を受賞している。

〔優れた点〕

- 出版されたものについては、質的には大いに見るべきものがあり、下記、研究業績欄にあるように、受賞作も多い。地域研究分野での大平正芳記念賞や、大同生命地域研究奨励賞（2名）、学士院賞、文化人類学会賞、地域研究コンソーシアム研究企画賞、フィリピンの National Book Award に 3 作、受賞しており、また経済学分野に関する日本経済新聞・日経図書文化賞（日本経済新聞）とエコノミスト賞（毎日新聞）にも最終選考候補にノミネートされるなど、評価の高い単著が多く、今期、受賞が相次いだ。自然科学分野でも、地域医療に関わる多数の論考とフィールド医学の実践的な活動に対して保健文化賞を受賞した。
- 平成 27-令和 2 年度の間、受託研究として受け入れている科学技術振興機構（JST）のプロジェクト（日 ASEAN 科学技術イノベーション共同研究拠点-持続可能開発研究の推進（JASTIP）, さくらサイエンスプラン）など、科研費等の外部資金による受託研究・補助金の受入総額は 804,069 千円（基幹運営費の 119.1%）に上る。さくらサイエンスプランによる受け入れ実績は、ラオス、カンボジア、ベトナム、タイ、ミャンマー、マレーシアからいずれも 10 名ずつ計 10 回に及んでいる。
- 書籍出版については、広く国内外から原稿が寄せられ、出版委員会が原稿の選考・査読過程をつかさどり、質の高いモノグラフや編著など和文 2 シリーズ『地域研究叢書』（今期中 7 冊刊行 うち 1 冊は国際地域開発研究大来賞受賞）および『地域研究のフロンティア』（京都大学学術出版会）（1 冊）、英文 3 シリーズ（京都大学とシンガポール大学出版局（3 冊）、京都大学とハワイ大学出版局、京都大学とオーストラリアのトランス・パシフィック出版社（1 冊）との夫々共同出版による）の叢書を刊行してきた。令和元年の特記事

項として、英文叢書では、シンガポール大学出版局・京都大学学術出版会による Kyoto CSEAS Series on Asian Studies の一冊が、George McT. Kahin Prize 2019 と EUROSEAS Best Book in the Humanities 2019 をダブル受賞した。

〔特色ある点〕

- 現地連絡事務所をバンコク（昭和 38 年設立）、ジャカルタ（昭和 45 年設立）にそれぞれ置き、駐在員が常駐して現地における連絡・ネットワーキング業務にあたっている。
外国人の教員（教授 2 名、准教授 3 名）、研究員、客員教員とともに所の運営を円滑にするため、会議等は必要に応じて英語で実施し、業務やメール連絡も日英両語で実施している。
- 5 か国語によるオンラインジャーナル Kyoto Review of Southeast Asia の配信もまた、東南アジアの若手を中心とする研究者に対して、東南アジア地域研究研究所をアピールする重要な方途となっている。招へい研究員や招へい外国人学者などの形で東南アジア地域研究研究所に滞在経験のある研究者を中心に、Special Editor を任命し、時宜にあった特集を企画しており、執筆には東南アジア地域研究研究所の若手研究者も多く参加し、海外への可視性の高い発信の機会となっている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、1 件、1 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。